

令和7年7月25日（金）
令和7年度工学部教育企画委員会 FD 部会

令和7年度第1回教員相互授業参観（オープンクラス）に対するご意見・感想について

令和7年6月23日（月）～7月4日（金）に、令和7年度第1回教員相互授業参観（オープンクラス）を実施いたしました。いくつかご意見や感想をお寄せいただきましたので、以下に掲載いたします。

※掲載内容については、個人が特定されないよう一部改変しております。

《機械工学・システムデザイン学科》

- ・受講生は静かにしており、良い環境だと感じました。4割程度の出席者は少ないと感じましたが、新入生が大学の授業は出なくても良いという気分にならないことを祈っております。（出ても出なくても理解できるようになれば良いとは思っております。）
- ・オーソドックスな板書の授業で安心できると感じました。これは考え方にもよると思いますが、帽子をかぶったままで授業を受けている学生がいることについては、違和感を覚えました。
- ・パワーポイントのスライドを用いた授業の難しさを感じた。スライドの説明を一方向的に聞いているだけ、の状態で学生の集中力がいつまで持続するかが難しい。
- ・参観した授業の教員は熱意を持って覚えるべきポイントなどをわかりやすく教えており、授業自体には特に意見はありません。ただ、後ろから参観すると学生の様子をよく知ることができ、後方の席に座っているかなりの数の学生は教員が近くにいようがまいが、他の授業のレポートを書く、ゲームをする、音楽を聴いていて、授業に集中していないことが改めてわかりました。教員が教育の質を上げることも重要ですが、学生にもモチベーションを上げさせる必要もあるかと思いました。
- ・他の授業との関連性が高い内容でした。WebClass などツールを効率的に活用していました。
- ・事例を交えつつ、機械要素の選択の仕方を適切に説明していました。
- ・現在商品化されているものにどの様に組み込まれているか説明があり、とても有効であると感じました。
- ・ワードやエクセルの使い方において、基礎的な使い方ではなく、工学的な応用の使い方を教えており、良く練られた講義だと思いました。
- ・講義の構成や、話法や時間の使い方など大変勉強になりました。
- ・グループワークが主体の授業形態であったり、扱うテーマが技術的なものに限定しておらず自由に設定できる点で、工学部の学生向けに開講されている中ではユニークで特色のある授業だと思いました。学生目線から社会問題を取り上げ、解決策を講じて起業計画を立て

る、という演習は必然的に企業研究を経るため、就職活動やインターンシップを控える学生のニーズに寄り添えるところも魅力的だと思います。

・専門的な内容を話すときに、学生がイメージしやすいように身近な内容から丁寧に説明されていました。

《電気電子物理工学科》

・説明の際、タッチペンによるスライド画面への書き込み、黒板など、説明内容に応じて使い分けていた。スクリーン以外に黒板4枚使える教室のメリットだと感じた。

・板書、口調ともに丁寧で、説明もわかりやすい。ぜひ参考にしたいと思いました。

・手書きの電子ノートを拡大して投射して示す講義でした。求め方をペンタブ利用の手書きで随時拡大してみやすくしていました。書いてからすぐ消えるペンなども併用し、単なる板書とも単なるスライドとも違う感じで、新鮮でした。題材は、固有値・固有ベクトル方程式で、2行2列実数行列を扱っていました。逆行列を持つ条件を思いつく人に挙手を求めて、時折参加を促すようにしていました。丁寧な説明で、おそらくは取りこぼしがなさそうな進め方に感心しました。口さがない学生の皆さんが授業評価をしている「埼大住民」でも最高評価（裏ベストレクチャー賞？）なのは、なんとなく納得できました。画面動画キャプチャーと音声録音でオンデマンド配信動画にして、YouTube 上においても良いのではないかと思います（手書きで、特に著作権上の問題もなさそうですし、WebClass に限定する必要もないかと思います）。質の高い講義をしているという広報になるのではないのでしょうか。

・本授業では、関数補間の一例として線形補間を取り上げ、プログラミング演習で扱った配列の復習を交えながら、学生の理解度を見て段階的に解説を加える形で進められていました。一方で、受講者が40名程度と比較的少なく、プログラミングに慣れる機会としては、より多くの学生が履修するように、今後のカリキュラム設計（講義名の魅力化）や履修指導により履修者が多くなることが望ましいと感じた。

・時間通りに開始し、20~30分後にはWebClassへの解答などスケジュール管理がよく出来ていると思った。予習・復習の課題も良い取り組みだと思う。全体的にゆっくり講義が進む感じがするので、予習・復習課題の解説を丁寧にする時間をとって、前回からの流れを思い出してもらうのも良いかと思った。

・説明が丁寧でした。学生定員が増えてきており、縦長ではない、大人数でも受講しやすい講義室が不足していると感じました。

・スライドによる授業なので、ポイントがまとまって見やすい反面、解説だけだとわかりにくい面もあった。予習課題や途中学生に問題を解かせる時間を設けることにより理解度があがりそうな点とかは参考になった。

・参観したときは課題の説明等は終了して、学生が演習に取り組んでいるところかと思いますが、学生がそれぞれ熱心に演習課題に取り組んでいました。

・数人のグループで活発に話し合いながら議論をしている様子をうかがうことができました。

た。学生が自身で主体的に参加するフレームワークは効果が高い、というのを実感しました。

- ・講義中に自分で手を動かす時間、自分で考える時間が必要なようで、数学、物理などでは演習が効果的に働いているように感じる。その一方、学生の基礎学力に大きな差異があるようで、限られた時間でこなせる量が違っていているように感じた。多くの学生は授業に対して前向きであるものの、一定数の学生、特に後ろに座っている学生の取り組みの状況は芳しくないよう。ただし、これはこの講義に限った話では無い。

- ・科目名から期待される内容とはかなり異なっていた。

《情報工学科》

- ・私が行っている授業と内容が近いので、どのように授業が行われているかを知ることができてよかった。

- ・演習中に学生間でディスカッションできるのはとても良いと思います。学生も集中を切らさず、楽しそうに取り組んでいるように見えました。

- ・新しい内容の部分に入る回のように、これからしばらく、どのような話をするのか、ここは時間をかけてやります、などの紹介を、都市鉱山の話など、ニュース等で聞いたことのあるような話題を使いつつ、冒頭でしっかりとしていたところは参考になりそうだと感じた。

- ・タブレットを用いて投影しているスライドに、適宜、ペンで情報をインタラクティブに追加するので、学生も「講義に出た方が理解が深まる」と感じているのではないかと思います。また、提示している数式や手法はどのような効果を持つのかをアニメーションで提示しており、大変わかりやすく、その後の説明への興味も高まると感じました。大変勉強になりました。

- ・教室についての感想ですが、工学部 55 番教室でプロジェクタを使う場合、スクリーンが左右に1つずつあるため、教卓を黒板の中央におかないといけません。このとき HDMI のケーブルの長さが不十分なように見えました(機器の設置されているボックスを中央に寄せて使っている)。授業内についてですが投影しているスライドにインタラクティブに式を書き込みながら講義をする形式は、板書された数式をノートにとる手間を軽減しつつも、非記載の内容をノートにとるために話に集中させるよい塩梅の方法だと感じました。ただ、途中式などを書き加えた際には説明が終わってすぐに式を消すのではなく、学生がメモを取る時間をとってあげた方がより効果があると思います。

- ・講義のはじめに、今日のテーマと目標をきちんと明確に伝えているのが素晴らしいと感じました。学生も問題意識を持って講義を聞いているようでした。タブレットでの板書をスクリーンに映す形式ですが、書きながら話すというインタラクティブな要素が理解に役立つと感じました。また、学ぶ内容が実際にどう役に立つのか？ 計算機での実装時にどのような恩恵があるのか？ など、学科の特性に合わせた説明もあり、学生の興味を引いていたと思います。自身の講義にも役立てたいと思いました。

- ・前回の講義の内容の復習を行った後に小テストを実施していた。授業内容が学生の身につ

くように工夫された授業構成になっていた。参考になった。

・スライドを使用した授業は、スライドの内容を考えているうちに授業が進んでしまい追いつけないことがよくあります。担当先生は、このことを把握した上で、学生が考える時間を設ける・要点を何度か伝えるという工夫をされていて、学びがありました。ありがとうございました。

・板書で丁寧に解説されており分野外の私にも非常に分かりやすいものでした。

《応用化学科》

・全体を通して丁寧に授業が作られていた。学生の理解に合わせて授業の速度が調整されていた。板書の量も最小限にしてあり、理解が追いつかない学生のペースにも合わせつつ、一方で授業を聞かないと全く理解できないようになっていた。そのためか、学生も全体的に一生懸命授業を聞いていた。一部、授業を聞かずに他のことをしている者や居眠りしている者もいたが、それで授業を理解できないのは本人たちの責任であろうと考える。

・これはすごい講義だと思います。緻密に準備されていて、先生の熱意も感じられ、板書も見易く、分かり易く工夫が施されていました。本来、難しい内容を扱う講義範囲だと思いますが、時に平易で馴染みやすい表現を使用されていて、学生さんにイメージが容易になるように配慮がありました。私も物理化学の講義を行っておりますが、先生が使われた表現や言い回し、板書の内容を活用したいと思いました。

・講義室後方に座っている学生は講義を聞いていなかった。自分の講義でも講義を聞いていない学生がいることは把握しているので、同じ状況だと思う。改善すべきだが、実際には人数の多い講義だと講義室が広すぎるし対策のしようがないと感じた。

・スライド上に質問を掲載して順番に答えさせたり、授業内容と分かりやすい身近な話題をリンクさせたりするなど、学生の注意を引く工夫と丁寧な説明がなされていると思った。

・スライドと板書を利用した丁寧な説明が行われていた。よくある光景だが、後ろにいる学生は授業とは別のことをしていて、残念に思った。

・パワーポイントではなく、ホワイトボードへの書き込みによる課題の解説などが学生自身の注意をしっかりと引き寄せていたように見受けられた。参考にしたいと思う。

・講義は板書中心のため、マイクを持ちながらの説明は難しそうだった。ただ、一番後ろの席からも声はしっかり聞こえました。

・一番後ろの席からも読めるような文字で板書されていました。

・チョークの色を使い分けることで、書いている所を見逃したとしても、先生が強調したい点の分かりやすく示されていました。

・授業の展開が整理されており、学生が内容を無理なく追える構成になっていたと感じました。また、学生の理解を助ける配慮が随所に見られ、参考になりました。

・非常に聞きやすく、分かり易い講義であった。演習を含め理解を深めていた。

《環境社会デザイン学科》

- ・小グループに分かれた実験講義であるため、各々の受講学生が能動的に参加している点が良い。専門的な知識は座学だけでは理解が難しいことから、(選択専門科目をより効率的に集約して減らして) こういった小グループの実験講義を増やすべきと思われる。
- ・外部講師(さいたま市職員)の方によるさいたま市の紹介であった。出前講座などでも使用している資料もあり、内容としてはわかりやすかった。
- ・講義資料のプレゼンはイメージ図、実際の写真等を織り交ぜ非常に見やすくまとめられていた。
- ・本講義では、演習課題に対して学生が ChatGPT などの AI を使って安易に回答を済ませてしまうのを防ぐために、解答を学生一人ひとりに対して口頭試問の形式で確認することが、非常に有効であると感じました。

以上